

まちの話だい

12月25日 | 駅舎を彩る正月飾り

「チームおもしろ五和駅」のメンバーが、合格駅（竹下）を門松やしめ縄などの正月飾りで彩りました。期間中、多くの利用客や受験合格を祈願する人たちが訪れ、特別な装いの駅舎を見て楽しんでいました。

1月24日には、駅舎内にある合格地藏尊の安置5周年を祝う記念祭を開催。関係者や地域住民が、受験生の試験合格などを願いました。



1月17日 | お地藏様に合格を祈願

旧東海道金谷坂「すべらず地藏尊」で、祈願祭が行われました。多くの受験生やその家族が、志望校に合格できるようお参りをしていました。

坂の途中に建立されたお地藏様は、長い間旅人の足元を守ってきた「滑らない山石を敷いた石畳」にちなみ、すべらず地藏と親しまれています。毎年多くの人が、試験合格・健康長寿・家内安全・疫病退散などを願いに訪れています。

トピックス

オリンピック当時の自分と再会



1月18日、1964年東京オリンピックの聖火リレーで、旧金谷町の副走者を務めた青島和枝さん^{あおしまかずえ}が、市役所本庁舎を訪れました。

きっかけは、川根温泉で開催したオリンピック写真展。青島さんは知人から、聖火リレーの写真に自身が写っていることを聞きました。「まさか今も記録が残っているとは思わなかった。また当時の様子を見ることができて、本当にうれしい」と当時の様子を振り返りました。





1月7日 | 1年の無病息災を祈る

千葉山智満寺で、400年以上受け継がれる伝統行事「鬼払い^{おにばらい}」が行われました。

元日から7日までの法要を締めくくるこの儀式では、暗闇から登場して堂内を暴れ回る、赤・青・白の3体の鬼を読経によって退治し、1年の無病息災を願います。今年は感染症対策のため、関係者のみで実施。参拝者のいない厳かな空気の中で、コロナ収束の願いを込めた読経が本堂に響きました。

1月20日 | 絵本を通じてつながる

伊太小学校で、島田樟誠高校の生徒による絵本の読み聞かせが行われ、4～6年生の児童26人が参加しました。

絵本は、地方創生や地域活性化を考える授業の一環で、子どもたちに地元の観光資源や魅力を知ってもらおうと、生徒が制作したもの。手書きのイラストをデジタル化し、各所の写真と組み合わせた絵本に、子どもたちは熱心に聞き入っていました。



1月20日 | みんなでシトラスリボン

六合中学校は、コロナ禍で生まれた差別や偏見をなくし、正しい理解を広めることを目的とした「シトラスリボン」を作る授業を行いました。

シトラスリボンは、愛媛県の有志が同県特産の柑橘にちなんで発案した、シトラス色のリボン。編まれた3つの輪は、地域と家庭と職場(学校)を表現しています。授業では2年生157人が、市から配布されたキットを使って製作しました。